

# PPSA-JC NEWS LETTER

Pan-pacific Surgical Association-Japan Chapter(PPSA-JC)

第31回会長 松田剛明教授

台湾で開催

会期 2014.10.31～2014.11.2

## 第31回大会開催に向けて

この度、第31回 環太平洋外科系学会日本支部学術大会 (Pan-Pacific Surgical Association-Japan Chapter) を平成26年10月31日から11月2日に台湾の首都台北にありますセラトングランデ台北にて開催させて頂くことになりました。このような機会を与えてくださった甲能理事長をはじめ役員、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。



本学会は、外科系の若手医師が海外で発表する場として毎年太平洋に面した都市で開催されております。今回は東大大学院時代の私の同僚であります、林明燦 (Ming-Tsan Lin) 国立台湾大学外科教授・国立台湾大学医学部付属病院副院長のご協力を得て、開催することになりました。林教授は、独自で開発した腹腔鏡手術器具やダヴィンチを駆使し、消化器外科領域のMinimally Invasive Surgeryを多数行っております。今回は、林教授の特別

講演や台湾大学外科の医局員の発表も御願っておりますので、会員の皆様には活発な議論を通じて台湾最高レベルの医師達と交流を深めて頂きたいと思っております。

本学会の特色は、1) 日本の若手外科系医



師が英語で発表をすること、2) 発表内容が外科系全域に渡ること、3) 参加者が100名程度とこぢんまりまとまっていること、などが挙げられると思っております。利点としましては、言うまでもなく若手医師の英語発表の登竜門として、海外の本場の学会発表に繋がる良い訓練の場となることや、普段聞くことの少ない他の外科領域の発表に接する機会となっていることなどが考えられます。一方改善が必要な点として、1) 例年発表者に対する質問が座長と一部の教授に限られていること、2) 若手医師が自分の専門分野以外の発表にあまり興味を持たないこと、が挙げられます。本学会は上述したように、参加者は100人程度と比較的少人数です。学会を活性化するために、理事や評議員の先生方の医局からの若手出席者には、事前に抄録をよく読み、自分達の専門分野は勿論のこと他の分野の発表に対しても積極的に質問をするようご指導頂きたいと思っております。今回優れた発表をした若手参加者には、” Young Award ” を贈ることを検討しておりますが、積極的に質問をしたかどうか評価項目に含めたいと思っております。

また、発表者が自身の専門分野の発表において他の専門分野との関わりを加味することで、参加者全員の興味を引くことになると思いますので、この学会の特色を生かす発表を心がけて頂けると幸いです。なお、今回は、他の学会と同様に口演と示説の形式を取らせて頂きます。少数例の症例発表は示説になる可能性もありますのでご了承下さい。

参加者の皆様が本学会を通じ、他施設や他分野の、さらには広く海外の外科系医師達との交流を促進することを期待しております。皆様にとって実りある学会となるよう、教室員とともに準備を致しますので、奮ってご参加頂きますよう御願い申し上げます。10月末に皆様と台北でお会い出来ることを楽しみにしております。

学校法人杏林学園 副理事長  
杏林大学医学部救急医学教室 教授  
松田 剛明



## 第30回PPSA-JCを開催して 第30回会長 世良田和幸教授

第30回PPSA-JCは、前回と同様、ハワイのホノルル市で開催されました。続けてハワイで行われたのは理由があって、私をはじめとしてこの会に参加した麻酔科の先生方の何人かは、10月13日～16日までSan Franciscoで開催された、American Society of Anesthesiologist (ASA)参加後、帰国の途中でPPSAに参加したいという意向があったからでした。麻酔科医だけの都合で、申し訳なく思っています。

今回の会期は、平成25年10月16日から20までの5日間で、前半はHawaii Prince Hotel Waikikiを会場とし、16日のwelcome partyから始まり、17日一日、18日の午前中までの講演と一般演題、18日の午後には、Hawaii Prince Golf Clubで親睦ゴルフコンペが行われ、18日の夜には、ゴルフコンペの表彰式を兼ねた、Farewell partyがPrince Hotelのテラスで和やかなうちに開催されました。翌日の19日には、会場をハワイ島のHapuna Beach Prince Hotelに移動し、第30回を記念しての



Satellite Meetingを開催しました。初日のWelcome partyには、当初の参加人数を40名位と予定していましたが、70名余りと予想外に多くの方々の参加を得て、嬉しいやら予算オー



バーやらで、ひやひやしなからの幕開けでした。今回は、第30回の記念大会でもあり、特別講演には、ハワイ大学外科教授の町淳二先生に「アメリカにおける医学教育」についてのお話をさせていただき、日本の医学教育と比較して学ぶことの多いお話でした。また、Memorial lectureとして、釧路労災病院院長の草野満夫先生に、「PPSA-JCの30年間を振り返る」と題して講演していただきました。故和田壽郎先生の提唱で立ち上がったこの会の成り立ちから現在まで、様々なエピソードを交えたお話で、大変興味深く拝聴しました。また、最後に、故和田壽郎先生の奥様から特別発言があり、さらに当会に多額の寄付をいただき、会員一同大変感銘を受けました。今回のPPSA-JCでは、7講演、30口演発表がありました。エントリーされた方々は、90名を超え、多くの皆様にご参加いただいたことを心から感謝いたします。また、Prince Hotelのご厚意で、会場を最初予定されていたところよりも、より広く立派な会場に変更していただき、学会の様を呈したことを感謝いたします。

18日に行われた、Farewell Partyでは、近隣のホテルから歓迎するかのような花火が上がり、フラダンスの催しなど多くの会員及び家族の皆様の懇親を深めることができました。ゴルフの表

表彰式では、知らずも会長の私が優勝してしまい失笑を受けましたが、直前まで知らされておらず、参加された先生方に申し訳なく思います。また、この18日は、私の誕生日と重なり、皆さんに祝って頂いて、心に残る大会となりました。



今回のPPSA-JCは、ハワイでの開催が続いたにもかかわらず、多くの方々にご参加いただき、誠に有り難うございました。最後に、昭和大学横浜市北部病院麻酔科の医局員に感謝するとともに、Hawaii Prince Hotel Waikiki、DEPOC、日本旅行の皆様にお礼を申し上げます。来年は、台北での開催となりますが、会員の皆様と再び台北でお会いできることを祈るとともに、大会のご成功を心からお祈りいたします。

昭和大学横浜市北部病院麻酔科  
世良田 和幸

ハワイ島でのSatellite Meetingには、10名の方々にご参加いただき、昭和大学藤が丘病院外科主任教授の田中淳一先生の「大腸直腸癌の内視鏡手術」についてのお話で、近年の内視鏡手術の発達に感銘を受けました。



## 第30回PPSA-JCを開催して 和田 周子



2013年9月16日 相変わらず晴れた空、蒼い海原、ブーゲンビリア、ハイビスカスの花々。いつ来てもホノルルは私をrelaxさせてくれる。ホテルの窓からヨットが曳航されてゆっくり外海に行くのを眺めながら私はこれでホノルルは何回訪れたのかしらと思い巡らした。

PPSA-JCが30周年の御祝いをホノルルで行うとの事、昭和医大の世良田会長から是非と御誘いをいただき、最初は故和田壽郎と共に訪れた思い出が一杯あって、少々辛い気持ちであったが、この様なchanceを与えられ一歩踏み出さなければ亡き主人が決して喜びはしないと決心し機上の人となった。

主人は戦後すぐ日本からの留学生第一号医師として米国で4年間を過ごし1954年Boston Harvard大での新しい心臓外科手術を身につけ、帰国の途中ホノルルに寄港の折、この学会の事を知ったと日記に書かれてある。2年に一度の非常に大勢の参加者で賑わっていた。私は1964年以来、アロハシャツとムームーを着てレイをかけられ、友人達も出来楽しむことが出来た。主人はこの学会のPresidentとして2000年にSydneyで学

会を主催。Life Achievement Awardの表彰状もいただいた。

主人がこのPPSA-JCを創設したきっかけは、1960年代国際学会で日本人が活躍し始めた頃、日本からの演者が壇上で講演後の質疑応答に苦慮する姿を度々目にし、その講演内容が素晴らしかっただけに英語での応答や話し方のtechnic, manner等を学ぶ必要性を痛感し、このPPSA-JCを発足させたと語っている。このepisodeがPPSA-JCのスタートであり、やがては世界のどんな舞台でも通用する医師を育てる事になるとの希望と確信を持っていた。

この30年間、理事長と毎年選出された会長とstaffの方々の御苦勞、理事の方々の協力なくしてこの学会の今日はなかったし、それ以上に参加者の皆様の心ある御参加なくしてはあり得ない現実である。今日の日本の若いgenerationの医師の方々は国際会議出席のchanceも多く、自己表現も自由に出来る時代と御見受けしている。

しかし、ここで主人和田壽郎の生き方から私が学んだ事をお知らせして、今後の御活躍の一端となればと思う。医学界は急速に変化、進歩している。この現実に向かって更に将来を見据えて広い視野を持ち、鋭い感受性と柔軟性を持つこと。実践的行動力それに対する思考力と正しい判断力を持って実行する。私の主人は国境を越えて得意のドイツ語、英語でいつもこれらをユーモア溢れた話し振りで語り、患者さんの為に、医学界の為に働いていた。手術場では大変厳しく、この一分一秒が患者さんの一生を支配すると云っていた。

この度30周年を記念してこのようなchanceを与えられました事、嬉しく心から御礼申し上げますと共に誇りに思う。どうぞ和田壽郎と云う外科医がいた事を忘れないで下さい。そして彼の外科医としての信念を通じ未来の医学の発展に貢献されます様。

私のつたない文章でこの応援の思いが伝わることを祈りつつ。感謝をこめて。

和田 周子



## Pa-Pacific Surgical Association-Japan Chapter(PPSA-JC)の 30年を振り返る

PPSA-JC名誉会長／第15回大会(サイパン)会長  
草野 満夫

故和田寿郎札幌医科大学名誉教授によって設立されたPPSA-JCは、1984年に東京で開催された第1回大会以来回を重ね昨年には第30回の記念大会(大会会長:昭和大学藤が丘病院麻酔科世良田教授)をハワイで開催し、30年の歴史を誇るまでになった。

1947年に設立されたホルルに拠点を置く親学会のPPSAは日本、韓国、オーストラリア、カナダの4支部がある。日本支部であるPPSA-JCはこの4支部の中でもactivityが最も高い。

PPSAは名前のごとく太平洋沿岸諸国の外科系の学会として、胸部外科、心臓血管外科、腹部外科のみならず眼科、整形外科、耳鼻咽喉科、頭頸部科、産婦人科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、救急医療、また麻酔科といわゆるメスを持つ科の医師が参加する学会である。同様の組織としては、アメリカ本土のCollege of Surgeon、日本では外科系連合学会がこれにあたる。



30年を記念し、PPSA-JCを設立して下さった故和田寿郎教授について紹介したい。

2011年2月に88歳で他界された和田先生は、国内においてだけでなく世界的に高い評価を得た心臓外科医であった。1944年に北海道大学医学部大学院を卒業し、「凍傷の研究」で博士論文を得た。1950年に米国ミネソタ州立大学へ留学、その後オハイオ州立大学、ハーバード大学で研究を続け、心臓外科医の道をまっしぐらに突き進んだ。当時、世界初の心臓移植を執刀した南アフリカのクリスチャンバーナード医師とも親しく交流した。

1954年に帰国、札幌医科大学の初代学長の大野教授の招きで、札幌医科大学の助教授に任命され、1958年には36歳の若さで札幌医科大学の胸部外科の初の教授となった。

先生は「ワダ弁」と呼ばれる人工弁をはじめ人工心肺の分野でも多くの優れた業績を残された。そして、1968年にはわが国初の心臓移植を執刀された。日本初、当時世界でも30例目と言われたこの移植手術は、その後大きな歴史的な意味を持つ出来事となった。

1977年には、日本では東京女子医大の心臓血管外科研究所の教授に就任、活動の場を東京に移し、東京女子医大を定年後の1987年には、東京有楽町に和田寿郎記念心臓肺研究所を開設された。その間、国際外科学会、世界胸部外科学会(和田先生により設立)はじめ多くの国際学会の会長として、

世界的な医学の発展に貢献された。そうしたことから、2007年には、心臓血管外科の分野の世界の七賢人の一人に任命されもした。

また、優れた医師であると同時に次世代の教育にも精力的な和田教授のもとからはなんと39名もの教授が生まれている。また、フィリピン、台湾、香港、韓国での心臓手術手技の指導や教育も精力的に行った。

PPSAの主催、PPSA-JCの創設は、このような和田先生の活躍の延長線上からできた、いわば必然であった。その根底には、かつての自分と同じように若者が世界に飛び出し、堂々と外国の外科医たちと渡り合えるだけの情熱と、それを支える語学力を身につけてほしいという、和田先生の経験と実績に基づく強い信念があったのだと思う。

近年、日本人医師が、国際学会での発表、英文論文を執筆する必要性がますます高まってきた。最近では、特定機能病院の認定基準に、1病院あたり年間70編以上の英文による論文発表というこ

とが検討されているという話も聞く。

国際学会で発表する医師は少なくないが、発表後の英語での十分な質疑応答に耐えることのできる医師はそう多くない。

一人でも多くの医師が英語でのpresentation、質疑応答に耐えられるだけの英語力を身につけるためのstep-stoneとしてPPSA-JCを活用して欲しいという思いから、この学会はできるだけ日本に近い太平洋沿岸の外国の都市で毎年開催されている。日本国内からの参加者が大半であり、効率を考えれば国内でという声もあろうが、あくまでも開催地は海外であることが重要だと私は思っている。英語に不慣れな者でも、外国という「場」の力を借りることで、英語での発表に挑戦する勇気もでる。

「自ら機会を作り機会によって自らを変えよ」というのはリクルートという会社の以前の社訓だそうだ。和田先生はPPSA-JCという場を、我々後進に与えてくださった。和田先生の残してくださっ





たこの場の力を借りて、英語による発表や質疑をするという機会を自ら作り出し、その機会によって、世界に目を向け世界で活躍できる、自分を変えることのできる医師が多く育つことを願っている。

私は光栄にも和田教授の後任としてPPSA-JC理事長を務めさせていただいた。

約20年前、旭川医大から昭和大学に移ったばかりで東京に人脈の多くない私をPPSA-JCのメンバーに誘って下さり、また後任の理事長に託してくださいましたことを、今でもとてもありがたく思っている。PPSA-JCを通して、私もまた和田先生に育てていただいたのだと、自分が当時(昭和大学に移りPPSA-JCに誘っていただいた頃)の和田先生と年齢が近くなるにつれ、その思いはますます深くなった。

私の後任理事長の前慶応大学脳外科教授の河瀬 斌先生、現在の理事長の甲能直幸理事長(杏林大学耳鼻咽喉科・頭頸科教授)、事務局の皆さま、PPSA-JCの歴代会長の先生方、また多くの本学会の会員、学会に出席された先生方、関係者の皆さまのご尽力にもここに御礼を申し上げたい。また、本会の抄録を毎回掲載していただいているClinical Pharmacology and Therapy(薬理と臨床)の医薬出版の編集長の新堰辰雄氏にも改めて感謝申し上げたい。

そして、和田先生の奥様の周子様のご指導ご支援がなければ、この会もここまで継続発展することはできなかったであろう。周子様のご厚意には、言葉に尽くせぬ感謝、まさに感恩戴徳の思いである。

PPSA-JCの更なる発展を記念しつつ、亡き和田先生への敬意と感謝を込めて、和田先生と私の母校である北海道大学のクラーク博士の言葉を記して、私の30周年に寄せる思いとしたい。

“Boys, be ambitious.

Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame.

Be ambitious for that attainment of all that a man ought to be, like this old man.”

釧路労災病院 名誉院長

草野 満夫



## PPSA-JC 30年の歴史

PPSA-JC 理事長 甲能直幸教授

本学会は1984年に故和田壽郎先生が東京で第1回を開催された。外科系の若い医師の国際学会への登竜門として、この会で度胸をつけて国際舞台に飛躍して欲しいと言う先生の強い思いが込められていた。学会期間中は常に最前列に陣取り、全ての発表に対して質問される先生のお姿は、わが子を見守る親のようであった。パーティの席では、若い人と積極的にお話になり、ご自分の経験などを聞かせて下さった。ある時、若い医師が和田先生から名刺を頂いたときに、自分の名刺を持ち合わせていないことを伝えると、「君は何と失礼な男なのだ」と烈火のごとくお怒りになり、このような交流の機会に人脈を広げる努力をすることが如何に大切なことであるかを、若い医師の胸を拳骨で力いっぱい叩きながら話しておられた。胸板の厚い男性だったのでゴンゴン鈍い音が響いていたが、和田先生の情熱を感じさせる印象的な出来事であった。また、私が第23回の大会を仰せつかったとき、非常に丁寧な電話を頂いた。それも突然に「私は和田壽郎と申します。23回の会長をお願いできますか」とお話し下さり大変に恐縮した。この時の電話の会話も先生の誠実なお人柄を感じ、非常に印象的であった。この様に和田先生の思いが沢山詰まったこの会も順調に発展し、昨年、30回大会が無事終了した。この時に行われた草野満夫前理事長のPPSA-JCに関するご講演は、これまでの30回の総括とも言える印象に残るお話で感銘を受けた。

本年度は第31回の大会となる。世代交代のサイクルである30年をひと区切りとすると1回目の新しいスタートの会となる。台北にて杏林大学の松田剛明会長のもと国立台湾大学の全面的なサポートを得て盛大な大会が企画されている。地元大学と濃厚にコラボレーションするという本学会の新しいスタイルが形成されるのではと期待している。また、本大会から和田令夫人のご厚意で設立された和田壽郎記念賞が優秀な若手の発表に授与される。これも新しい試みで若い医師への良い刺激になればと願っている。

この学会は学問だけではなく、学会が終わった後の交流も大きな楽しみである。是非、他大学、他領域の人々と交流を深め、他の科ではこんなことをしているんだ、こんな機械を使っているんだなど、新しい経験、新しい発見をし、新しい医療技術開発につなげて欲しいと思う。兎に角、楽しい学会、楽しむ学会です。

皆様、10月31日～11月2日、台北でお会い致しましょう。

杏林大学医学部付属病院長  
杏林大学医学部耳鼻咽喉科学教授  
甲能直幸



PPSA-JC 歴代の理事長

名誉理事長 (1983~1997)	和田壽郎	
名誉理事長 (1998~2008)	草野満夫	釧路労災病院 院長
理事長 (2009~)	甲能直幸	杏林大学 耳鼻咽喉科・頭頸科 教授

過去の学術大会

回	開催年	開催地	会長	所属施設
31	2014	Taipei	Takeaki MATSUDA	Kyorin University, Department of Emergency Medicine
30	2013	Honolulu	Kazuyuki SERADA	Showa University Yokohama Northern Hospital, Anesthesiology
29	2013	Honolulu	Yoshio OGAWA	Showa University, Urology
28	2012	Bangkok	Masanori SUGIYAMA	Kyorin University, Surgery
27	2010	Honolulu	Toshiyasu SUZUKI	Tokai University, Anesthesiology
26	2009	Hongkong	Hiroya KITANO	Tottori University, Otolaryngology, Head and Neck Surgery
25	2008	Bangkok	Tetsuo HIDA	Kyorin University, Ophthalmology
24	2007	Honolulu	Atsushi SHINKAWA	Shinkawa Medical Group, Otolaryngology
23	2006	Bangkok	Naoyuki KOHNO	Kyorin University, Otolaryngology, Head and Neck Surgery
22	2005	Noumea	Koshi SATO	Kitasato University, Surgery
21	2004	Cairnes	Takeshi KAWASE	Keio University, Neurosurgery
20	2003	Guam	Yasufumi ASAI	Sapporo Medical University, Traumatology & CCM
19	2002	Honolulu	Hideki YOSHIDA	Showa University, of Urology
18	2001	Taipei	Koichi TOMODA	Kanazawa Medical University, Otolaryngology
17	2000	Bali	Akira KAKITA	Kitasato University, Surgery
16	1999	Tianjin	Yasuhiro FUJIWARA	Kousei General Hospital, Surgery
15	1998	Saipan	Mitsuo KUSANO	Showa University, Surgery
14	1997	Tokyo	Hirosato KIKUCHI	Toho University, Anesthesiology
13	1996	Chejudo	Toshio YAMASHITA	Kansai Medical University, Otolaryngology
12	1995	Guam	Masamitsu KANEKO	Sapporo Medical University, Traumatology & CCM
11	1994	Okinawa	Koshiro HIOKI	Kansai Medical University, Surgery
10	1993	Tokyo	Mitsuo MOTEGI	Toho University, Orthopedic Surgery
9	1992	Guam	Hiroshi TAZAKI	Keio University, Urology
8	1991	Tokyo	Shigeo YOSHIDA	Tokyo Women's Medical University, Obstetrics & Gynecology
7	1990	Tokyo	Shozo NAKAZAWA	Nippon Medical School, Neurosurgery
6	1989	Honolulu	Takeshi HIRAYAMA	Tokyo Women's Medical University, Plastic Surgery
5	1988	Tokyo	Hiroharu MATSUDA	Kyorin University, Surgery
4	1987	Tokyo	Yoshio KUROSU	Toho University, Anesthesiology
3	1986	Tokyo	Juro WADA	Tokyo Women's Medical University, Thoracic and Cardiovascular Surgery
2	1985	Tokyo	Juro WADA	Tokyo Women's Medical University, Thoracic and Cardiovascular Surgery
1	1984	Tokyo	Juro WADA	Tokyo Women's Medical University, Thoracic and Cardiovascular Surgery

## 平成26年度PPSA-JC役員会議

平成26年6月13日に平成24年度PPSA-JC役員会議が行われました。

話し合われた内容は以下のとおりです。

- 1 会計報告 繰越金の使用、学会の援助、会費に関して
- 2 第30回PPSA-JC (ハワイ) 事務局長 昭和大学横浜市北部病院麻酔科 世良田和幸教授  
学会の参加者数、演題数等について
- 3 第31回PPSA-JC (台北) 会長 杏林大学救急科 松田剛明教授  
学会の詳細な予定について
- 4 第32回PPSA-JC 会長 金沢医科大学耳鼻咽喉科 鈴鹿有子教授  
第32回大会はハワイにおいて、平成27年9月20～22日に予定。

## PPSA-JCホームページ

PPSA-JCのホームページを立ち上げました。今後も随時アップしていく予定ですので是非ご覧ください。

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/ppsajc27/>

## 年会費納入のお願い

今後も学会の更なる発展、運営・維持のため  
会費納入へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

会費：施設会員／20,000円

個人会員／5,000円

＜会費振込先＞ ゆうちょ銀行

【ゆうちょ銀行からお振込の場合】

- 座記号番号：00180-7-267295
- 座名称：環太平洋外科系学会日本支部会

【他銀行からお振込の場合】

- ◆店名(店番)：019 ◆預金種目：当座
- ◆□座番号：0267295
- ◆□座名義：環太平洋外科系学会日本支部会

PPSA-JC News Letter 2014

発行 <<環太平洋外科系学会日本支部会>>

事務局：杏林大学耳鼻咽喉科頭頸科学教室  
〒181-8611

東京都三鷹市新川6-20-2

Tel：0422-42-5968

FAX:0422-42-5968

E-mail：kyorin-ent@ks.kyorin-u.ac.jp

日本支部事務局 代表 今西 順久、佐藤 大